

芦安ファンクラブ通信

二〇〇六年、芦安ファンクラブへの期待

新年おめでとうございます。
会長 花岡利幸

新年おめでとうございます。

芦安ファンクラブが発足(一九九九年)

して、今年は七年目になります。過ぎ去

つた六年間は皆さんにはどのように感じ

られるでしょうか。この間の主な活動を

一覧表にまとめてみました。この表の内

容は、例えば「六町村合併して南アルプス

市となる」など、ファンクラブの背景を示

すものも含みますが、一覧して私たちは

過去にずいぶん活動してきたことが分か

ります。

これは偏に会員の皆さんの南アルプス

及び芦安にかける情熱の賜だと思います。

同時に人の力はすごいものだと思います。

人は無から有を生み出す力を持っていますが、目に見える形で成果が現れることが多いことではありません。しかしこの一覧表を眺めると芦安ファンクラブの成果がよく理解できます。

新年に当たり、次の飛躍へ向けて二つのことを述べてみたいと思います。

一、南アルプスの自然保全

南アルプスの利用と保護は芦安ファン

クラブの大きな目的ですが、その内容

を幾つか上げます。

ア、「人の入れる場所と、入れない場所

をはつきり区切って、入ってはいけない場所には人を入れてはならないこ

とこれが原則です。

第23号
新年号

NPO 法人
芦安ファンクラブ
南アルプス市芦安
芦倉 1589-8
事務局：(大滝)
055-288-2531

ゆっくり快適に過ごすための山岳文化施設、山岳宿泊施設、山岳売店、山岳休憩施設、音楽堂、神社なども必要です。そこは休養、療養など癒しの場になるかも知れません。

芦安ファンクラブが発足(一九九九年)して、今年は七年目になります。過ぎ去つた六年間は皆さんにはどのように感じられるでしょうか。この間の主な活動を一覧表にまとめてみました。この表の内容は、例えば「六町村合併して南アルプス市となる」など、ファンクラブの背景を示すものも含みますが、一覧して私たちは過去にずいぶん活動してきたことが分かります。

これは偏に会員の皆さんの南アルプス及び芦安にかける情熱の賜だと思います。

同時に人の力はすごいものだと思います。

人は無から有を生み出す力を持っていますが、目に見える形で成果が現れることが多いことではありません。しかしこの一覧表を眺めると芦安ファンクラブの成果がよく理解できます。

新年に当たり、次の飛躍へ向けて二つのことを述べてみたいと思います。

一、南アルプスの自然保全

南アルプスの利用と保護は芦安ファン

クラブの大きな目的ですが、その内容

を幾つか上げます。

ア、「人の入れる場所と、入れない場所

をはつきり区切って、入ってはいけない場所には人を入れてはならないこ

とこれが原則です。

芦安ファンクラブが発足(一九九九年)して、今年は七年目になります。過ぎ去つた六年間は皆さんにはどのように感じられるでしょうか。この間の主な活動を一覧表にまとめてみました。この表の内容は、例えば「六町村合併して南アルプス市となる」など、ファンクラブの背景を示すものも含みますが、一覧して私たちは過去にずいぶん活動してきたことが分かります。

これは偏に会員の皆さんの南アルプス及び芦安にかける情熱の賜だと思います。

同時に人の力はすごいものだと思います。

人は無から有を生み出す力を持っていますが、目に見える形で成果が現れることが多いことではありません。しかしこの一覧表を眺めると芦安ファンクラブの成果がよく理解できます。

新年に当たり、次の飛躍へ向けて二つのことを述べてみたいと思います。

一、南アルプスの自然保全

南アルプスの利用と保護は芦安ファン

クラブの大きな目的ですが、その内容

を幾つか上げます。

ア、「人の入れる場所と、入れない場所

をはつきり区切って、入ってはいけない場所には人を入れてはならないこ

とこれが原則です。

これらの場所は登山者が適正利用するために施設整備をする必要がある場所です。例えば山頂や峠には地点と標高を示す標識が必要です。休憩の場所を上手くとつておくことも必要です。登山道は安全に歩けり部。

②立ち寄り地点は山小屋、峠、山頂、その他見晴らし地点や休憩地點。

③地点間ルートは地点間を結ぶ登山道、林道、ロープウェイなどの連結部。

表一 芦安ファンクラブ活動と関係事項

1997.2	前身南アルプス俱楽部、北岳の大樺沢を継続調査し、大腸菌汚染を発表
1999.1	芦安ファンクラブ設立
8	芦安村への提言、中間報告を村長に手渡す
9	第1回「芦安登山教室」を実施、以降毎年春秋2回開催
9	甲斐ヶ根沢旧道復旧整備作業実施
11	甲斐ヶね神社跡地確認調査
2000.1	村内の観光資源を発掘するため、2ヶ所の滝の調査
3	芦安村オリジナル地形図の作成を村へ依頼、起案作成
4	季刊紙、芦安ファンクラブ通信第1号発刊
5/6	ヨーロッパアルプス研修実施
11	第12回芦安村紅葉祭り参加
2001.6	南アルプス開山祭の企画、開催
2002.2	南アルプス芦安山岳館基本構想策定への参加
2	蕎麦の会の組織化実現
2	NPO法人化に向けて準備会が発足
5	山梨県「NPO芦安ファンクラブ」認証
9	第11回全国ボランティアフェスティバル山梨の一環で芦安部会開催への協働
2003.3	南アルプス山岳館開館、以降運営にボランタリーに係わる
4	6町村合併し「南アルプス市」となる(直接関係なし／取り巻く環境)
4	山岳館企画展「山の日本画家宮本和郎」展の開催への協働
6	野呂川林道のマイカー規制(直接関係なし／取り巻く環境)
8	山岳館で「絵画教室」開催への協働
9	市職員登山研修を実施
2004.1	芦安ファンクラブと県知事との語らい
4	山岳館企画展「山の版画家畦地梅太郎」展の開催への協働
6	南アルプス国立公園40周年記念大会、市と協働主催
8	南アルプス国立公園指定、40周年記念行事へ協働
10	国土地理院は北岳の標高3193.2m(旧3192.4m)と発表(直接関係なし／取り巻く環境)
2005.4	山岳館企画展「地図展」の開催への協働
8	第6回ライチョウ会議・山梨大会(芦安)の支援活動
9	ドノコヤ街道の復活と芦安鉱山跡の遺跡調査
10	北岳御池小屋の改築、アルペンプラザとともに小屋の管理にNPOが参加する

南アルプスではこれらの施設整備の考え方が遅れており、全体施設のバランスがとれていない傾向にあります。それは「自然保護＝何もしないこと」を本筋で考へてきた結果です。この考へは間違つてゐると思います。その結果、北アルプスなどと比べて入山客があまり多くないのに自然破壊(特に自然汚染)が進んでいる状況が見られます。それゆえ、山小屋施設及びターミナル施設の整備をその周辺環境とマッチさせながら進める必要があります。以上は適正利用に関してサービス提供側がキチンと考えないといけない問題です。これに向けて私たちの努力が少しでも役立つよう活動参加をお願いします。またそこには地元行政を始め、県や国の関係機関と協働しながら一層の活動推進を図ることが大切です。

適正利用は人の入れる場所の収容力と深く関係します。上では適正な施設整備をしないと自然破壊に繋がることを述べました。さらに登山客のマナー向上が適正利用の収容力と大いに関係します。山を大切に使えば収容力は増やせるのです。それゆえマナーを守つて安全で楽しい登山をするための登山教室はより重要性を増してきます。

また昨年のライチョウ会議では動物保護の問題についていろいろな勉強をさせてもらいました。特に猿や鹿や熊を甘やかした結果、彼らが人里にも、ライチョウにも

被害を及ぼしている実態は自然保護に対する盲目的な思いに警告の灯をともしてくれました。こうした観点から南アルプスの利用と保全を考える必要性も感じました。

以上、これらは総合的に山岳文化と呼んでいいかもしれません。常識的なことですが、これを達成するには厳しい現実を幾つも超えなければなりません。芦安ファンクラブが果たす機能は大きいはずです。

二、老若男女のNPO芦安ファンクラブ

芦安ファンクラブの会員は南アルプスに魅せられて集まつた人々から構成されています。ご承知のようにこの会の特色は芦安の地元住民の会員はもとより、南アルプス市、甲府盆地、山梨県、関東地方の広い範囲からの会員から構成されています。南アルプスの魅力に惹かれて集まつた仲間の活動の結果が芦安のまちづくりに繋がるとなれば一石二鳥の喜び、これに勝るものはありません。

南アルプスの山の魅力は「老若男女」に共通していますから、会員の年齢構成も均等に散らばつているように思います。高齢社会ですから高齢者が若干多いかと思いますが、このうち「若」の層が少し手薄のように感じます。今年は「若」の会員にも声をかけて会員増加に努力しましよう。

今年も皆さんと一緒に頑張りたいと思ひますのでよろしくお願ひします。



薬師岳からの幻想的な日の出（1月）

白根御池小屋完成

この芦安ファンクラブ通信の紙面にも何回か経過が掲載され、早期の建設が待たれていた「白根御池小屋」が十月末に完成した。自然にやさしい景観や設備はもとより、内外部に木材をふんだんに使用して作られた快適な建物はこの地域の安全登山の拠点になることは間違いない。完成まで関りをもつて汗を流してくれた多くの方々のご尽力に改めて敬意と感謝を表したい。

平成十一年の四月、「草すべり」から「し」の字にコースを変え小屋を襲撃した雪崩による崩壊から数年、振り返れば建設への道程は長く、そして決して平坦な道ではなかつた。解体の後、仮設の小屋で対応する反面、早くから二十一世紀に向けて南アルプスのモデル的な山小屋を早期に建設するべく、関係機関の全体会議による行政指導と相互理解を目的として白根御池小屋検討委員会が設立された。環境省、国土交通省、山梨県、旧芦安村山岳関係者、旧芦安村などで構成された。協議の内容は次の様なものだつた。

第1回検討委員会概要

- (ア) 南アルプス北部山岳地域の環境保全及び適性利用についての説明
- (イ) 同地域における現状と課題の確認
- (ウ) 同地域における認定公園施設と現状の確認

- (エ) 白根御池小屋建設の位置、規模に関する複数の資料による検討が急務である事。等の協議が行われた。

第2回検討委員会概要

- (ア) 複数の候補地（第一案・大樺沢二俣左岸緩傾斜地、第二案・既設白根御池小屋北東部平坦地）の資料（利

用状況、環境、遭難対策、自然灾害等のデータ及び地形図、平面図、縦横断図、位置図、による検討及び適性地（第一案）の概選

(イ) 適正地の現地調査の実施方法、時期の検討。

等が行われ、その後まもなく第三候補地が加わり、協議事項が実行に移された。

検討委員会の動きは早く、上空からの候補地の調査（四月中旬）、数回の現地調査（五月中旬～七月初旬）雪圧調査（十二月四月）が行われた。度重なる会議でも建設適地等の方向性が定まらない状況の中、まもなく白根御池小屋建築準備委員会が立ち上げられ、平成十三年秋には先進的な経営をしている八ヶ岳他の山小屋の視察なども行つた。小屋のプランニングも平行して行われていった。行政関係者の現地視察も何回も行われ、時間の経過とともに、その都度示される見解や感想の変化に翻弄された事もあつた。新規候補地への建設の困難さが表面化されていった。この間、当芦安ファンクラブとしても数人、時には十人を超す協力体制をとり当初の目的に近い小屋の建設を目指し、協議や調査に關つてきた。最終的には平成十四年秋に既設建物の西側に建設が決まつた。早速設計に入り仕上がり頃は町村合併の真只中だつた。新たな市行政の中での許認可の時間を経て、平成十六年～十七年の足掛け二年の建設になり、厳しい環境の中ではあつたが建設関係者の献身的なご努力により無事に完成了。

この度行政の指定管理者制度導入に伴い当芦安ファンクラブがこの小屋の管理を委託された事は大変意義深く、任の重さを感じながら、使命を誇りに思うところもある。

昨今の山小屋利用者の動向は、様々な百名山ブームを楽しむ中高齢者の登山者の更なる高齢化と組織化を嫌う少数の若年者に占められていると言つても過言ではない、遭難箇所や遭難過程に裏付けられ、遭難体制の再考をも考慮される時期を迎えている。



完成し夏山シーズンを待つ新白根御池小屋 2005.10.25

建設当初に掲げた目的である「二十一世紀に向けて南アルプスのモデル的な山小屋」を目指し、完成までに關つた多くの方々の期待に沿つた運営を、行政と地域の力添えを頂きながら実施していくなければならない。

この度行政の指定管理者制度導入に伴い当芦安ファンクラブがこの小屋の管理を委託された事は大変意義深く、任の重さを感じながら、使命を誇りに思うところもある。

芦安ファンクラブ 清水(准)

芦安紅葉まつりに参加して

十一月六日(日)第三回芦安紅葉まつりが、山々の紅葉の美しさが朝の冷気と一緒に段と映える南アルプス市営金山沢温泉「こだま公園」において開催されました。

今回で第三回(市催)を数えるこの祭りは秋の実りに感謝し、芦安地域の特産物を使った手作りの食品やグループの活動を使つた手作りの食品やグループの活動を南アルプス市内外に発信する場でもあります。

祭りは、南アルプス市芦安地区の太鼓グループ「夜叉神太鼓」による勇壮な演奏で始まり、カラフルな民族衣装に身を包んだ「芦安フォークダンス部」の女性メンバー約二十名の踊りや、愛好家らによる信玄ロックダンスがステージ前で繰り広げられ、一層祭りに花を添えました。



真剣な表情で製作中のスタッフ



看板娘?は舌好調(絶好調)で売りまくる

初めのうちは朝の冷え込みの影響か会場の人の波もまばらでしたが、私たち芦安ファンクラブのテントでは売り子に成りきつた美女?四名、男性六名のスタッフが陣取り指導を受けて仕込んだ味噌饅頭の蒸かしの準備です。ひとりの提案で、近くの河原などから赤や黄色に色づき掛けたもみじの葉を調達してきれいに洗い、蒸かしたての饅頭にちょこっと載せてアクセントにする」としました。白く柔らかい肌に赤や黄色のもみじが映えて見た目も美味しいに出来上がった幾つかの見本のパックを店先に並べお客様が来るのを待ちました。

「湯気の上がった蒸かしたて味噌饅頭です」「割るとふわっと夜叉神笛味噌の芳ばしい香りだよ」「中身はあん」がたっぷりだよ」「秋の香りの味噌饅頭です」

南の売り場の方からも煮込みのいいにおいがしてくる。思えば山の紅葉の彩の中で、昔から地域で収穫されてきた大豆、小豆、稻、アワ、ヒエ、ソバ、葉大根の豊かな味に思いを巡らせる。続いていた秋の実りの作物の栽培も今は、めっきり減つてしまつたと聞いています。

「湯気の上がった蒸かしたて味噌饅頭です」「割るとふわっと夜叉神笛味噌の芳ばしい香りだよ」「中身はあん」がたっぷりだよ」「秋の香りの味噌饅頭です」

芦安ファンクラブの味噌饅頭は、来年もまた進化して皆さんにお目にかかると信じています。

この祭りが、終わると芦安の里には冬将軍たちが雪を連れて足早でやってくるのです。

南アルプスの懷に抱かれた山里の凜とした冬景色に静かに思いを巡らせながら筆を置きたいと思います。

芦安ファンクラブ 依田明子 記



ハイジ達のフォークダンスは祭りを一気に盛り上げた

春の登山教室のお知らせ!

「新緑と春花と歴史探訪と」

実施日 五月二十七日(土)二十八日(日)
研修 五月二十七日(午後)

芦安鉱山の話

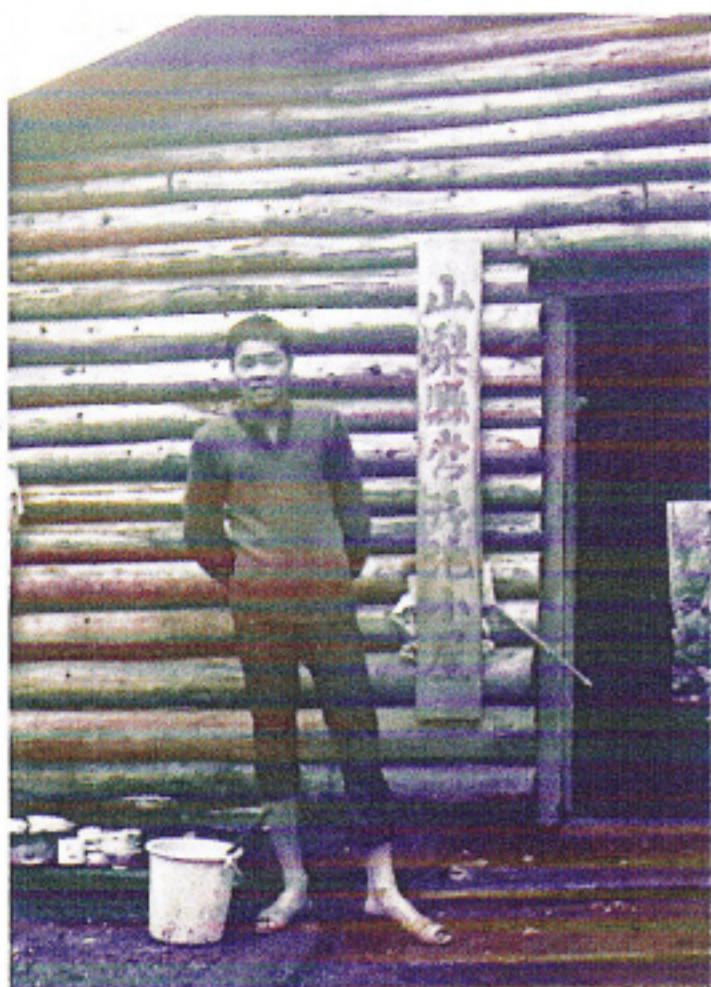
森林樹木の話

山歩き 五月二十八日(日)
コース 芦安→ドノコヤ峠→芦安鉱山
往復

※平成十七年秋、復旧した古道「ツチナギ」と呼ばれたドノコヤ街道を探索し鉱山跡地や地域教育の原点を見つめる。多くの参加者をお待ちしています。

隣のテントでは、芦安そばの会の手打ちそばが薫り高く茹であがつていてその香りにつられて、ぼつぼつと人の流れが多くなってきました。私はこの時を絶好機と思い、そばにありつかんと列に並んでくる人の流れに向かつて、味噌饅頭のテントへと呼び込みを始めたのでした。

白根御池小屋の初陣を終えて



高校1年生の夏（丸太壁の懐かしい小屋の前で）



ログハウス小屋前のプレハブ小屋

私が、白根御池小屋にはじめて行つたのは中学二年（一九六一年）の時であり、父親がその管理をしていた関係からであった。大龍権現が祭られていた白根御池畔に建てられて、間口二間半、奥行き六間であり真ん中に通路があり、その両端に寝るという、そのころの典型的なつくりであり、現地で伐採、製材をして作られたものであった。登山客は自分で食糧および寝具を持参し素泊まりであった。管理人の仕事は、暖房および炊事用の薪取り、掃除、登山客の相談相手等であつた。物資は今のようにヘリコプターは使わず、自分たちの食糧はもとより、資材まで人力に頼っていた。そのほとんどが近所の女性を頼み、時には隣に住む清水（准）君までお願いし、二人で尾根道をポツカした。最後の急登は「金目の坂」と言っていた。これは、ここを登りきるともうすぐ小屋でありお金をもらえることからであった。その後、数年間夏休みをほとんど小屋で過ごした。そのようなことをほんと私にとつて忘ることのできない山小屋になり、この経験がなければ山に関係なく今まで過ごしたかもしれない。

私は、白根御池小屋にはじめて行つたのは中学二年（一九六一年）の時であり、父親がその管理をしていた関係からであった。大龍権現が祭られていた白根御池畔に建てられて、間口二間半、奥行き六間であり真ん中に通路があり、その両端に寝るという、そのころの典型的なつくりであり、現地で伐採、製材をして作られたものであった。登山客は自分で食糧および寝具を持参し素泊まりであった。管理人の仕事は、暖房および炊事用の薪取り、掃除、登山客の相談相手等であつた。物資は今のようにヘリコプターは使わず、自分たちの食糧はもとより、資材まで人力に頼っていた。そのほとんどが近所の女性を頼み、時には隣に住む清水（准）君までお願いし、二人で尾根道をポツカした。最後の急登は「金目の坂」と言っていた。これは、ここを登りきるともうすぐ小屋でありお金をもらえることからであった。その後、数年間夏休みをほとんど小屋で過ごした。そのようなことをほんと私にとつて忘ることのできない山小屋になり、この経験がなければ山に関係なく今まで過ごしたかもしれない。

私は、白根御池小屋にはじめて行つたのは中学二年（一九六一年）の時であり、父親がその管理をしていた関係からであった。大龍権現が祭られていた白根御池畔に建てられて、間口二間半、奥行き六間であり真ん中に通路があり、その両端に寝るという、そのころの典型的なつくりであり、現地で伐採、製材をして作られたものであった。登山客は自分で食糧および寝具を持参し素泊まりであった。管理人の仕事は、暖房および炊事用の薪取り、掃除、登山客の相談相手等であつた。物資は今のようにヘリコプターは使わず、自分たちの食糧はもとより、資材まで人力に頼っていた。そのほとんどが近所の女性を頼み、時には隣に住む清水（准）君までお願いし、二人で尾根道をポツカした。最後の急登は「金目の坂」と言っていた。これは、ここを登りきるともうすぐ小屋でありお金をもらえることからであった。その後、数年間夏休みをほとんど小屋で過ごした。そのようなことをほんと私にとつて忘ることのできない山小屋になり、この経験がなければ山に関係なく今まで過ごしたかもしれない。

今年より、芦安ファンクラブの皆様のご理解の下、その管理に当たった。今まで山小屋自体側面から長年にわたり見てきたつもりであるが、いざ自分自身が直接その管理に当たることとなつて、不安と期待が交錯する中、四月より複雑な気持で過ごしながら入山、営業の準備で日を費やした。特に今年度は、一九九九年の五月に草すべりよりの雪崩で倒壊したための新築工事が行われることもあり、さらには仮設の施設での営業を余儀なくされることもあり、相当の覚悟はしていました。五月二十一日に、前任者の中村さん相棒の高妻君ほかと入山した。五月の連休に比べると雪解けはかなり進んでおり、幸いに翌日には仮設ではあるが水を引くことができ風呂にも入れ、まるで夢のようであった。二日後、工事関係者も入山し工事も始まり、約二週間営業のための準備を行つた。

六月下旬の北岳草の咲くころ予定されていたツアーは芦安側からの通行ができなくなつたために全部キャンセルとなつた。七月「海の日」の連休から相当数の宿泊客があり、夏山シーズンの幕開けである。人出に比例して事故の多発し、そのほとんどが中高年の下山中の骨折による事故である。その都度、警察等の対応に追われた。多い日には二件発生し、県警ヘリおよび民間ヘリで収容した。

ピーカは、八月の十日ころまでであり、お盆中は閑散としており意外であった。九月に入り、二回の三連休の初日は相当数の宿泊客があつた。十月になると日も短くなり、朝晩はめつきり気温が下がりマイナス四度になつた朝もあり、降雪も二回見られた。紅葉は、いまひとつで各職人さんは一生懸命であり、まさに頭の鮮やかさないまま落葉し、宿泊客は少なくその半面工事のほうは、完成間近で各下がる思いであった。その甲斐あって、二十五日に無事完成検査も終了し、三十日にヘリによる最終の荷下げを行つた。最後のヘリが荷物を吊つて広河原へ向かつた時の工事関係者の晴れやかな顔が今でも脳裏に焼きついてはならない。

今年より、芦安ファンクラブの皆様のご理解の下、その管理に当たった。今まで山小屋自体側面から長年にわたり見てきたつもりであるが、いざ自分自身が直接その管理に当たることとなつて、不安と期待が交錯する中、四月より複雑な気持で過ごしながら入山、営業の準備で日を費やした。特に今年度は、一九九九年の五月に草すべりよりの雪崩で倒壊したための新築工事が行われることもあり、さらには仮設の施設での営業を余儀なくされることもあり、相当の覚悟はしていました。五月二十一日に、前任者の中村さん相棒の高妻君ほかと入山した。五月の連休に比べると雪解けはかなり進んでおり、幸いに翌日には仮設ではあるが水を引くことができ風呂にも入れ、まるで夢のようであった。二日後、工事関係者も入山し工事も始まり、約二週間営業のための準備を行つた。



雪崩で倒壊したログハウス小屋

三十一日に閉荘作業を完了し、我が北岳に感謝しつつ、やり遂げたという達成感と満足感を味わいながら工事関係者と共に広河原に下山した。

約五ヶ月の営業を終了し、常に、泊めてやると意識を捨て去り利用者、登山者の立場に立つての接遇を心がけ、高山植物の保護等、環境の保全、安全登山の指導など山小屋として果たすべき役割及び使命を十分に認識しその管理運営に当たつて、その責任の重さを改めて痛感した。

三億四千万円余の巨費を投じ関係者の一方ならぬ努力により、南アルプスで最もすばらしい施設を備えた新御池小屋が完成した。石川市長が提唱している山岳観光の中心的な存在になることは間違いない。結びに、芦安ファンクラブの皆様には大変お忙しい中、小屋周辺の清掃活動や空き缶処理および登山道整備に出労下さりありがとうございました。更に営業中の御支援、ご協力及びご助言に対し心よりお礼を申し上げます。

山梨県峡中地域振興局林務環境部次長
権守一雄

野呂川の林业と林道

芦安の野呂川流域での大規模な木材の伐採、搬出事業は、天保五年（一八三四年）に初めて行われた。天保五年甲府勤番は、江戸城の修理に必要な用材を御林山より搬出すよう幕府から命じられ、この事業を木曾の庄屋中村儀助に依頼した。幕府から命じられた用材の数量は一万石（約三千立方米）、天保七年に完了したと言われている。



チェンソーがない時代、伐採は全て大鋸や斧であった



山落し (修羅出しと留めが何段にも見える)

③「バラ流し又は鉄砲下し」集積した木材を水量の多いところでは散流し、水量の少ないところでは渓流を堰き止め木材と一緒に下流に流す。④「筏送り」水量豊かで木寄作業が容易な場所で筏を組んで下流へ送る。

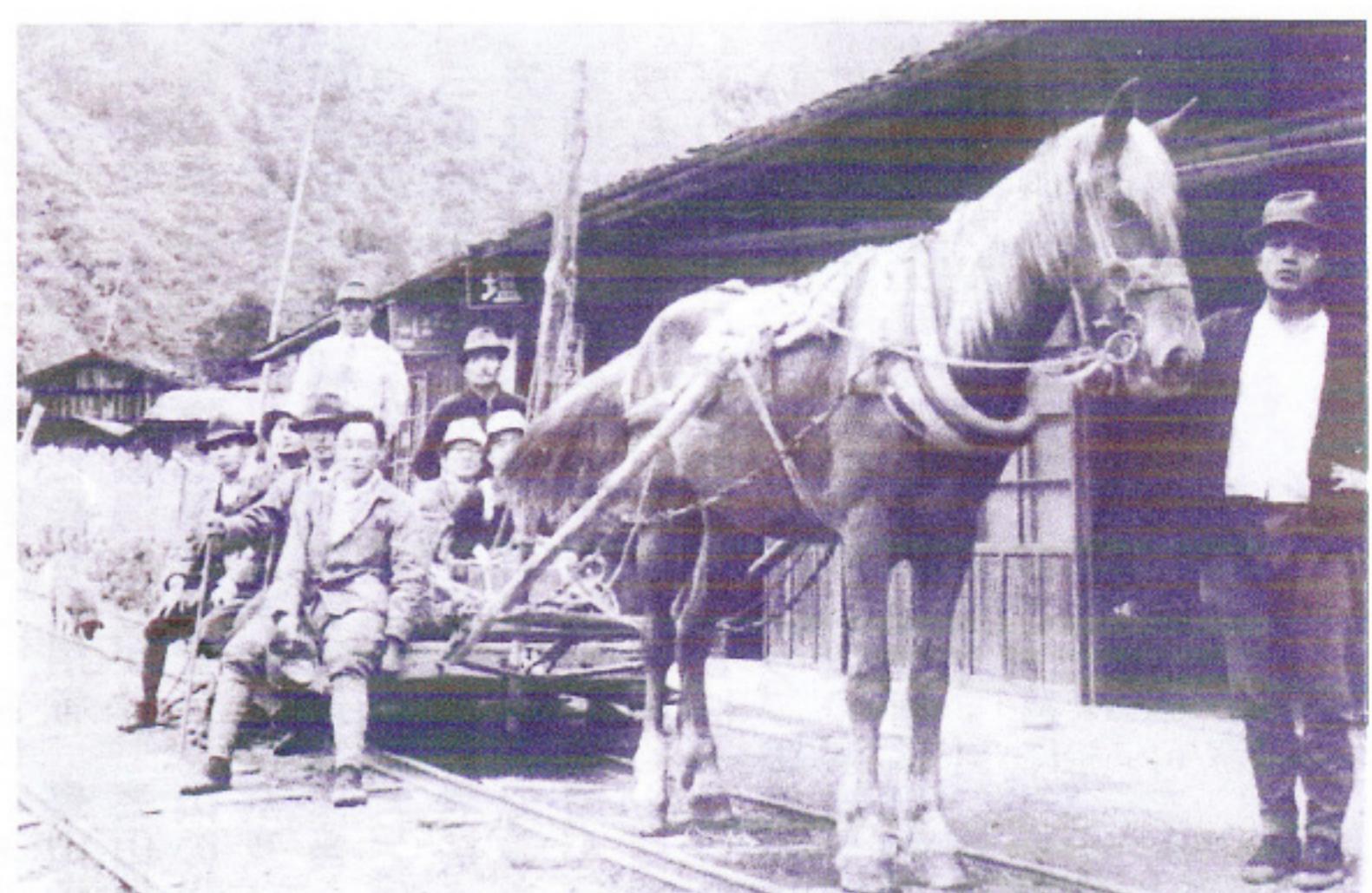
といつた方法で行われていた。

このような搬出方法は、昭和初期まで行われていたが、多大の労力を必要とし、木材の損傷も多く、さらによくによる増水で木材が流失する等損害を免れない搬出方法であった。



緩やかな勾配を惰性で下る

勾配を利用して人力でスピードを制御し、上りは馬力を利用した。その後、馬車から機関車へと替えられた。馬車から新倉まで東京電力によって建設された軌道約二十kmが、昭和八年山梨県に移管され、早川林道として管理されたのが始まりである。



西山温泉客の輸送にも使われた

その後、山梨県は森林資源開発のため軌道の建設を進め、昭和九年新倉から西山温泉の区間が、昭和十六年から西山温泉から奈良田の区間が完成した。さらに昭和十八年には奈良田から芦安に入り観音経から鷲住山の北東鞍部を回つて深沢尾根に至る三十八kmが完成し、早川橋右岸を起点に深沢尾根に至る総延長五十八kmの早川林道（軌道）が完成した。

①「木寄せ」伐採し散在している造材を搬出路近くに集材する。
②「機手又は修羅出し」材木を樋状に組んで、この中を集材した木材を滑らせて渓流近くに集積する。

この時代の木材の搬出方法は、昭和初期には軌道によるトロッコ輸送へと変わつていった。トロッコ一台に十五石（三立方米）から二十二石（四立方米）ぐらい積み、下りは

南アルプス林道の御野立所よりアザミ沢の対岸を見ると、垂直に切り立つ岩壁に半円形にえぐられた軌道の痕跡が残つてゐる。さらに、林道を広河原方面へと進むと、大崖沢から深沢まで所々に軌道開削の痕跡

が残っている。機械など殆ど使えない時代に急峻な岩壁に人力で軌道敷設に取り組んだ先人の苦労が伺える。

しかし、奈良田から深沢に至る軌道の管理は容易ではなく、急峻な地形ともろい地質に災害を受け易く、

沿線の立木約八千立方米を伐採し、昭和二十五年頃には廃道の止むなきに至った。この軌道も現在、奈良田までは県道となり、観音経から深沢尾根までは南アルプス林道となつている。

野呂川林道（南アルプス林道）

昭和二十六年 山梨県は、野呂川流域の森林資源の開発を主目的とした野呂川林道建設計画を樹立。

昭和二十七年 芦安の桃ノ木橋を起点に夜叉神峠をトンネルで抜き、

観音経から鷲住山の鞍部を通り野呂川を遡行深沢、赤沢、立石沢、シレ

イ沢、赤抜沢、ゴーロ沢を経て広河原に至る総延長二十三kmの野呂川林道の建設が始まった。

野呂川林道は、その規模、事業量等から当時我が国最大の林道建設工事であった。

夜叉神トンネル（一四八m）は林道トンネルとして、我が国最長であり標高一三九四mを貫く山岳道路として、一つのモデルケースであった。

起点から広河原まで、橋梁二十一箇所四六二m、トンネル二十三箇所

二、七〇七m、急峻な地形、断層破碎帶、厳しい気象環境等難工事の末総工事費一〇億六千万円をもつて昭和三十七年完成した。



人力での野呂川林道開設工事

めぐり、「自然保護か開発か」で工事中断となり、昭和五十三年に工事が再開され、昭和五十四年全線開通し現在の南アルプス林道となつた。

おわりに

機械などない時代に、伐採から集材そして運搬まで手作業で行うことは、危険で過酷な作業であつたに違いない。

「修羅・鉄砲・筏流し」から「軌道」そして「自動車道」へと搬出手段の変遷の中で、険峻な山岳地帯に果敢に林道建設に挑んだ多くの先輩、工事関係者の努力を忘ることはできぬ。



絶景が広がる御野立所



手彫りで岩盤をくりぬいた軌道跡が現在でも林道沿いに見られる

参考文献

- 「芦安村誌」「早川町史」
- 「目で見るはやかわの風景と歴史」
- 「御料林大観」他

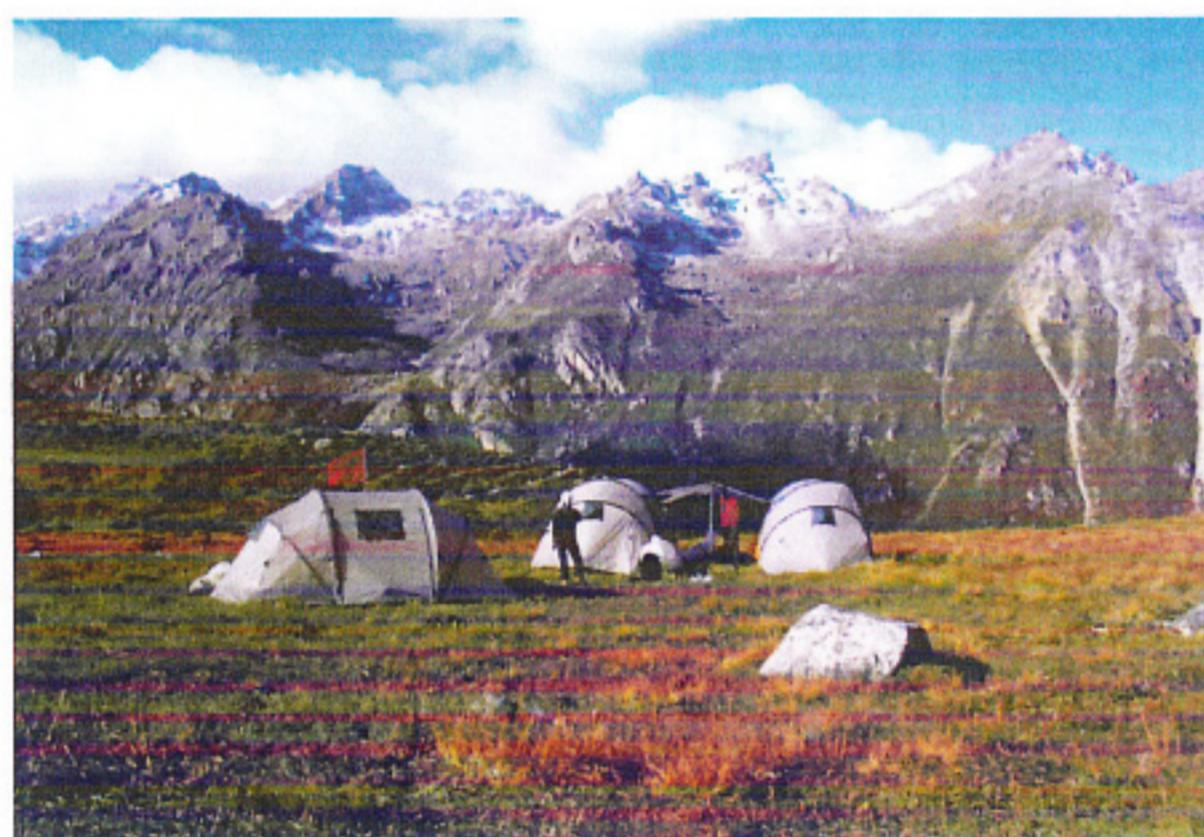
中国・四川省康南地方の探査

The Ashiyasu funclub Journal 2006 (8)

今回の探査隊は県内社会人山岳会の三人と大学山岳部の学生四名で編成した。目的の山域は成都から西に川藏公路を約1000kmの所で、甘孜藏族自治州にあり、そこは西藏自治区との境に近く、荒涼とした所で、チベット人が放牧などで生活している所だ。計画では成都を出て四日目に金沙江の中流にある二三六工班から支流の措納闊に入り、上流にある湖(ツオナホツツオ)まで約30kmをキヤラバンする予定であったが、途中の一八三工班から赤涼(当て字)に入り峰を越えて湖まで約20kmで行けることが分かり、こちらにキヤラバンコースを変更し一八三工班に泊まった。翌朝、荷揚げ用のヤク十三頭、馬四頭、チベット人三名を雇い、今まで外国人が立ち入っていない谷(赤涼)を遡り、四九〇〇mの峰を越えて三〇〇〇m程下りB.Cを設営、長い行程をひたすら歩き非常に疲れた。翌日から、二五〇m程下にある湖の周りを探査したり、B.Cの左右に聳える2つの山に登った。湖の上流は夏には下の村から放牧にやつてくる様だが、今の時期は無人で、我々の歩いたルートからは部族が違い、行き来は無い様だ。登った山は一峰とも未踏峰で五一六〇m程の小さな頂きだったが楽しい登山であった。また湖の向こうに聳える山の奥に今まで未知であった六〇〇〇mクラスの山々の姿が見え、カメラに收められたのは今回の探査の大収穫であった。そして探査を終え再び峰を越え長い道程を帰った。

その後、川藏公路を戻り、途中から大渡川の支流の小金川に入り四姑娘山方面に向かつた。移動の途中で見たヤラジン山(六〇〇〇m程の未踏峰)は素晴らしい山だった。四姑娘山は天気が良く真っ白な鋭い山頂を見ることができた。その後、五色山

や野人峰などが聳える双橋谷に入った。これは観光地になつていて一日中シャトルバスが走り沢山の人達が行き止まりまで日帰りで入っていた。行き止まりは鋭くとがった岩の山々がぐるりと周りを囲んでおり大きな岩壁が幾つも見えた。未踏峰が数多く見られ、今年の夏に山野井泰史氏が初登したポタラ峰も大きな岩壁を見せていた。



ベースキャンプ風景



いざ、アタック



芦安ファンクラブ 井口 功記

行ける成都から短時間で行ける所があるので、これから、もっと日本人登山者が増えると思われる、そんな印象を持つた山旅であった。

最初、カワロリ山(五九九二m)という未踏成都での最後の夜は火鍋のレストランで盛り上がり、再会を約束した。

我々はその谷の途中のロッジに三泊し、左岸の二本の谷を登り、どん詰まりで間近に山々や岩壁を眺め、登頂の可能性を考えたりした。来年にはこの辺りの山々を登りに来たいと思いながら成都に戻った。今回は、若い学生四人と中高年のおじさん三人、中国側はガイド兼連絡官、運転手二人、通訳一人と合計十一名で、車二台、走行距離約1000kmの山旅主体の行程であった。

成都での最後の夜は火鍋のレストランで盛り上がり、再会を約束した。

成都での最後の夜は火鍋のレストランで盛り上がり、再会を約束した。

農鳥飛來

十一月の初め、小春日和の頃、白根三山の島島岳を眺めると、初冠雪の雪溶けで白い鳥の雪形が現れていました。農鳥と呼ばれるこの雪形は、六月の雪溶けのころ現れるものとばかり思っていたので不思議に思い、郷土研究の先生に尋ねましたところ、「この時期にも条件がそろえば現れます、今回は白根三山へ初冠雪が来た後に、里も小春日和になつたので、山の気温も上がり六月の雪溶けの状態になつたから現れたのでしょう。

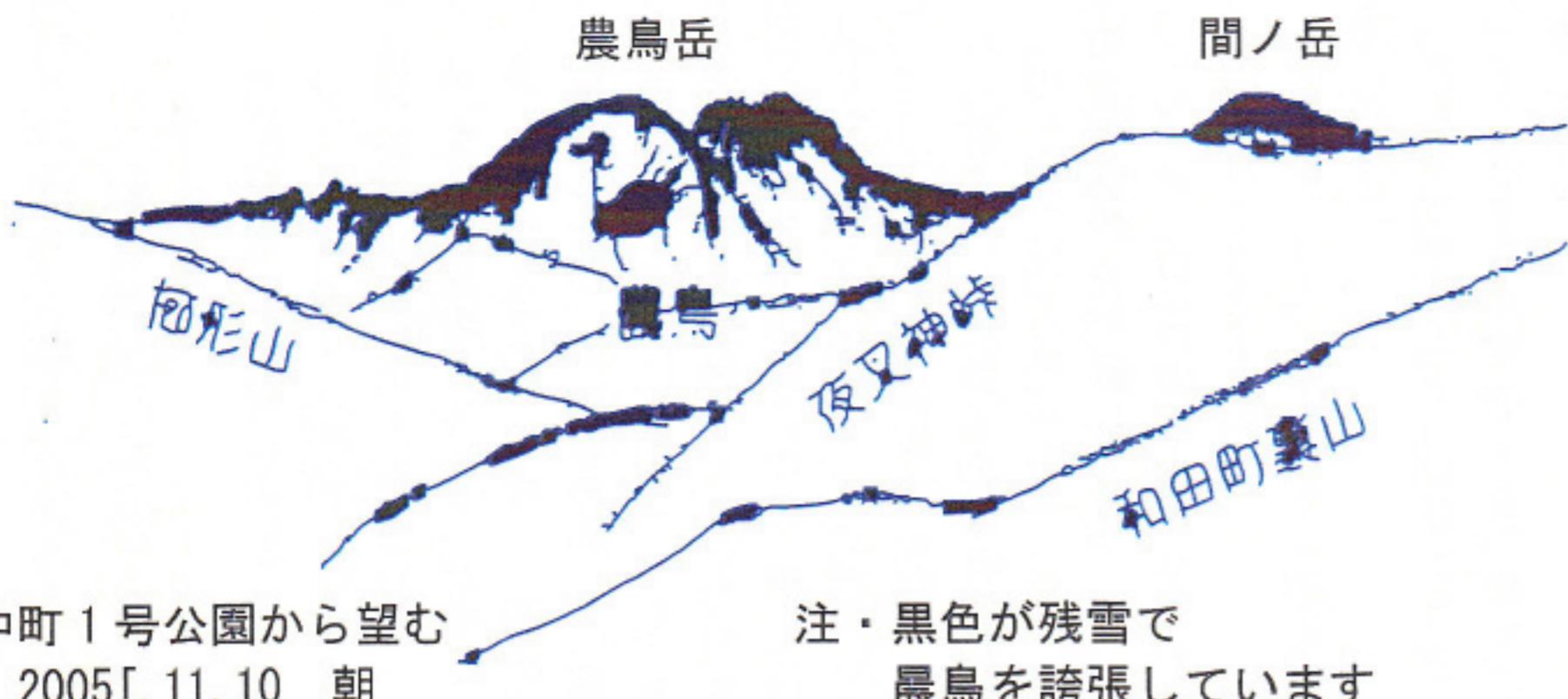
この農鳥は毎年六月の中旬に現れて、有史以来、山麓の農民に農耕の時期を教えて続けて来た。農鳥岳という山名はこの白い鳥の形が現れるのでついた名前です。この時期に農鳥が現れるのは来年の吉兆であつて欲しい」という話でした。

私は、十一月のこの時期に現れた白鳥を眺めながら、シベリアからジェット気流に乗つてはるばる渡りの旅をして来てこの山で羽根を休めているのかな？？？
幸せを運んでくれる白い鳥であつて欲しいなあ？。

南アルプスって山懐に幸せの鳥も抱きかかえてくれる母なる山だなあ……と、勝手な思いをめぐらせて、しばし眺め続けてしました。そしてこんないい景色が眺められる相川はいい街だ、とも！これから高嶺に雪がくると美しい山並みが現れる。寒さに負けないで相川からの景観美を展望しようと考へてゐるこのごろです。

時おなじくして県立文学館で「山の文学展」が開催されていて、その中で小島烏水が野尻抱影に宛てた農島説明の手紙を鑑賞してきたばかりだったので、この農島出現に鮮烈な印象を受けたのです。

芦安ファンクラブ渡辺（典）記



古府中町1号公園から望む
2005.11.10 朝

白根御池小屋周辺 クリーンボランティア実施

十月十五、十六日 芦安ファンクラブ有志十名で白根御池小屋周辺の掃除に行つてきました。小屋は今、新しくよみがえる為の建設中です。そんな状況の中で何度も小屋に足を運んでいる会員から、「周辺に古いゴミが目だつて来ている」「雪崩時の小屋の残骸が沢の中に放置されたままになつていてる」などの情報から、新しく生まれ変わり、再出発する小屋と新体制の門出をクリーンな環境で歩みだそうとの思い入れから企画されたものでした。

当日は朝から小雨のあいにくの天氣でしたが、ゴミ拾いを始める頃にはちょうど止み、小屋東方斜面のゴミから回収しました。草地から顔を出しているゴミを掘り出すと次から次へと際限なく錆びた空き缶やビンがでてきて、昔ニ」はゴミ捨て場だつたのではないかと思われるほど大量のゴミを泥まみれになりながら回収しました。

次は、いよいよ今回最大の目的、二年前の雪崩で小屋が崩壊したときの廃材その他の回収でした。見るとフレハブの屋根のパネルや木材が飛ばされたままの状態にしぶれていました。運びだせるのかなあと思いたくなる光景にちゅうちょしていると、数名の特撃隊がロープやナタを持って走り下り、一気に戦闘モードに入りました。小屋北面の急斜面に一列に並び、バキバキにたたまれたトタンやガスボンベ、ストーブ、空き缶、ビン、生活用品などをリレー形式で次から次へと汗びっしょりになりながら運び上げました。あまりの「ゴミの多さに雪崩の恐ろしさが容易に想像できました。

さて、次は回収したゴミの分類です。缶類は全て潰さないと業者が運んでくれないそうで、錆びて泥だらけの空き缶まで一つ一つ潰して分類しました。少人数だと途中で嫌になってしまふことでも多人数で励ましあいながらしたので、あつという間に終えることができ、芦安ファンクラブ員の結束の素晴らしさを感じました。

この日回収したゴミ類は、2トンモッコふたつの山。働き終えたみんなの顔の大満足そうなこと。その後は登りながらいただいてきたキノコ汁で一杯。そのお酒の美味しかったことは言うまでもありません。



芦安ファンクラブ 雨宮記

ちびっ子ボランティアスクール
「夜叉神峠」で「命」を学ぶ

十月八日、夜叉神峠において、ちびっ子ボランティアスクールが南アルプス市社会福祉協議会（社協）の主催で行われ、市内から児童と保護者二十数名が参加しました。多くの人が始めての登山、初めての夜叉神峠でしたが、植物観察や木の実の話を聞きながら元気に登りました。峠では「芦安の民話」の朗読をしていただき、参加者は山の歴史や自然の中の「命」を感じていました。帰りは南アルプス芦安山岳館でどんぐり「ころ」の続きの作詞や、どんぐりから芽を出した苗木の植林の約束をしてたのしい一日を過ごしました。

「どんぐり」「ロ」「ロ」のどんぐり、ありがとう。山登りできてよかったです」「つかれたけど、いろいろな植物が見れて楽しかった」「どんぐりが落ちて、ひびが入つて根っこがでて、大きな木が生えるのがすごいと思

「いい」とおぼえて楽しかった」「登りはつらかったけど、帰りはぜんぜんつらくなかったです。木とか、いろいろな植物がありました。はじめて山に登りました。ながめはとてもきれいでした。大変だった。けどまた登つてみたいと思いました。友達や家族といっしょに登つてみたいと思いました。いろいろな植物があるなあと思いました。初めて見る植物がいっぱいあります

「山を登つたのは初めてです。登りはとても疲れて足が痛かつたけど、ぐだりはとても楽でした。木や花をいっぱい見てきました。またいつか山に登つてみたいと思いました」

「今日は登りの方方がつらかったです。でも自然の中はやっぱりいいなと思いました。いろんな木の勉強をしたと思います。山登りなんて最初はいやだったのになんだか楽

じぐかできて山登りが好きにならました。下りはとっても足が痛くなつたけど最後までがんばつたと思います。いやな虫もいたけどやつぱり虫達も人間といつしよでこの世に住んでいるので嫌いな虫でも触れ

なくで大切にしたいと思します 私は今
日、リスの冬の「」とを考えてどんぐりを拾
うのをやめました。どんぐりだけじゃなく
他の動物の食べる物もあまり拾うのをや
めたいと思いました。「ミも捨てるのをや
めます。やっぱり自然で大スキ！」

「山登りを大好きなおじさんと

「山を登った後、いろいろな植物の名前を教えてくれました。見た所名前にそつくりな形の植物や面白い名前の植物やいろいろありました。いろいろな植物の名前がよく解りました。あと、木はよく考えると、人のために立っているということが解りました。木を切って家を作ったり、棚を作ったり、いすを作ったりしているという」とに気づきました。峠に着いた時ながめは最高にきれいでした。下る時足がジンジン痛かつたので「痛い」と言つていたら、登る時いつよだつたおじさんが「帰つたら足首を振るといいよ」と教えてくれました。帰つてさつそくやつたら本当に気持ちよかつたです」

「今日ははすてきな一日でした。いろいろな花の事を聞いてよかつたです。猛毒のある花や蛇に似た実もあつたし本当に今日は山登りしてよかつたと思います」「自然には人工で作れないものがあつてす」「いなど思いました。どんぐりなどもいっぱい落ちていたり、足が体の約十倍位のクモもいて面白かったです。北岳の説明のビデオを見たりもしました。山の形と植物には何か関



「草安の民話」を聞く参加者 夜叉神峯にて

成人の部

童謡「どんぐり」の続編の作詞
優秀作品の発表です。

童謡「ふんぐつ」の
優秀作品の発表です。

(独断と偏見による審査)

「うどんぐりー」る、悲しくて、涙がいつぱいあふれたら、お池のお水があふれ出でお山のおうちに流された

「どうくは、わたくしの友達集まって、楽しいパーティー開いたら、どうぐりころころ喜んだ」 齊藤節子さん

児童の船

ぐりおんぶして走つてお山につれてうた
ふどんぐら「ひひ」泣きやんでどじよ
うにあいさつへありがとう」おうちに帰つ
てうれしいよでもさみしくて泣いちやつ

た」
関ひろき君
お一人にはNPO芦安ファンクラブより
記念品（キタダケソウの写真付キャビネ用
額縁）を送らせていただきました。



清水
記

